

Mizuho Bangkok Daily Market Report

MIZUHO

Dated of 2022/08/01

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	36.32	-0.12
JPY/THB	0.2726	0.0011
USD/JPY	133.27	-1.00
EUR/THB	37.13	-0.03
EUR/USD	1.0220	0.0023
USD/CNH	6.750	0.005
SGD/THB	26.29	-0.12
AUD/THB	25.38	-0.09
USD/INR	79.26	-0.49
USD Index	105.90	-0.45

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.240	0.000
10Y (THB)	2.579	0.000
5Y (USD)	2.676	-0.022
10Y (USD)	2.649	-0.027

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,762.9	12.6
WTI (Oil)	98.62	2.2
Copper	7,917.5	155.5

Stock

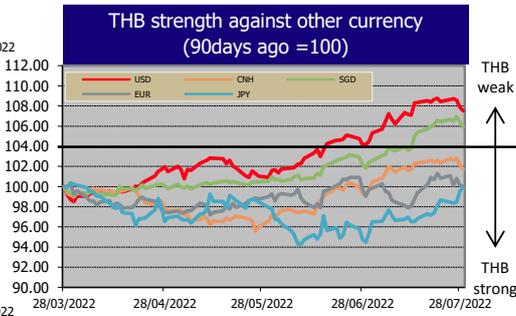
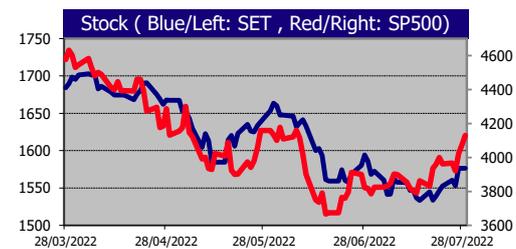
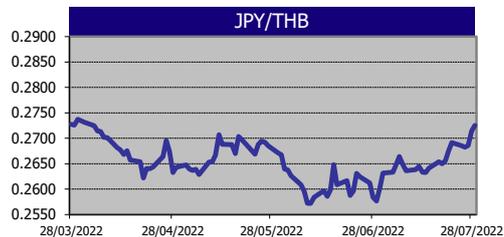
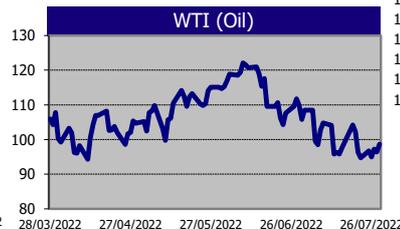
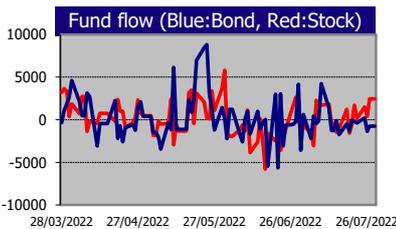
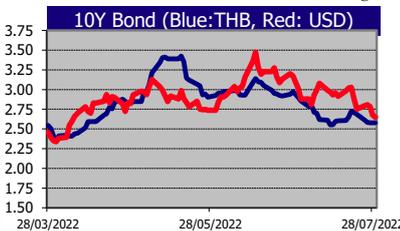
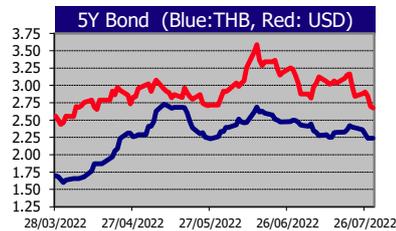
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,576.41	0.00
NIKKEI (JP)	27,801.64	-13.84
DOW (US)	32,845.13	315.50
S&P500 (US)	4,130.29	57.86
SHCOMP (CN)	3,253.24	-29.34
DAX(GER)	13,484.05	201.94

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	2,470	0.0
Bond net flow	(760)	0.0

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・27-29日にかけて、ドルパーツは下落。27日は36.75近辺でオープン。この日は商務省から6月の貿易収支が発表され、タイの1-6月の貿易は半期累計でも貿易赤字となり、FOMC結果を控えてドル高基調が継続し、36.90近辺で結果発表を迎えた。FOMCは事前予想通り0.75%の利上げが決定されたが、その後のパウエルFRB議長会見を経て、ハト派の解釈が優勢となり、その後はドル売りが強まる展開。28-29日にかけては、ドル円が大きく下落したが、ドルパーツも同様の推移を辿りドル売りが強まる中、29日には一時36.10近辺まで下落。28-29日はタイ祝日であったことから、実需取引が限定的となるなかで下落基調が継続し、結局36.32近辺で7月の取引を終えた。

●ドル円その他

・27-29日にかけて、ドル円は5円近く下落。27日のドル円は136.95円近辺でオープン。日中はFOMCを前に様子見で推移し、FOMCを同水準で迎えた。FOMC結果は事前予想通り0.75%の利上げが決定されたが、その後のパウエルFRB議長の会見では利上げペースはデータ次第との認識を示し、前回会合とは異なり、インフレ収束への期待ともとれる発言が見られたことから、米金利は下落基調に転じ、ドル円も136.35円近辺まで下落した。翌28日はFOMC結果を引き継ぎ形でドル売りが加速し、月末フローも相まって下落が加速。海外時間には米4-6期GDPがマイナス結果となり、テクニカルリセッションとなったことがドルの重しになり、136.10円近辺でオープンしたドル円は一時134.20円まで2円近く下落。29日もドル売りの流れは継続し、東京時間引けにかけて132.50円近辺まで下落。クローズにかけてはショートの利食いや押し目買いから上昇に転じ、結局133.20円近辺で7月を越月した。

Bangkok Dealer's Eye

先週は注目のFOMCや米4-6期・GDP結果を受け、大きくドルが売られました。FRBは3月から6月会合にかけて、インフレの抑え込みをすべくタカ派トーンを強めてきたわけですが、今回7月のFOMCでは事前予想通り0.75%の利上げを実施し、次回9月の会合においては、利上げ幅はデータ次第で決定するとの姿勢を示したことから、これまでのタカ派トーンからはやや軟化姿勢を示した結果となりました。これを受けて、先週の米株市場は大きな上昇を示し、サマーラリーの様相を示したほか、為替市場においては、大きくドル売りが進み、夏季休暇で市場参加者の減少が予想される中、インフレトレードのポジション調整が進んだ印象です。タイパーツにおいては、貿易収支が半期累積赤字を辿り、足元の実需フローとしては、パーツ安をフォローしている状況にありますが、8月10日に迎える金融政策委員会(MPC)ではいよいよ利上げを実施するとの予想が優勢となっており、米国が利上げペースを鈍化させる一方で、タイも遅れて利上げに追随することが現実的となり、米・タイ間の政策金利差も縮小の兆しが見えてきました。目先のマーケット材料としては、米7月CPI結果になりそうですが、現水準から再度急速にドル高ポジションが構築される可能性も少ない状況かと思われ、ドルパーツやドル円は戻り高値を見極めつつ、上値の重さが意識される相場となっていくと見られます。(橋)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.